

平成 18年度 修士課程学位論文要旨

学位論文題名（注：学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること）

韓国版高齢者興味チェックリストの作成

学位の種類： 修士（作業療法学）

保健科学研究科 作業療法学 専攻 学修番号 05855607

氏 名： 関 裕 善

（指導教員名： 山田 孝 教授）

注：1,000 字程度（欧文の場合 300 ワード程度）で、本様式 1 枚（A 4 版）に収めること

【目的】

本研究の目的は作業療法で用いられる興味チェックリストを韓国高齢者にも使えるように韓国版高齢者興味チェックリストを作成することである。

【方法】

予備研究として、まず原版興味チェックリストの活動項目と日本版高齢者興味チェックリストの活動項目から、韓国統計庁が発行した資料を参照して、韓国人に馴染みのある活動を選択し、改変して 43 活動項目からなる暫定版を作成した。次に、21 名の韓国首都圏在住の健常高齢者に 20 答法と暫定版による面接を実施し、検討するとともに、暫定版を修正し、46 活動項目からなる予備版を作成した。最終的に予備版を再度、101 名の韓国首都圏在住の健常高齢者に拡大実施した。

【結果】

予備版の Cronbach Alpha 係数は 0.82 であった。興味の合計得点は、中央値 M38.0、四分位偏差 Q7 であり、男性の合計得点は M38.0、Q6 で、女性の合計得点は、M37.5、Q8.5 であった。Mann-Whitney の検定の結果、男女間には有意差はなかった。韓国の健常高齢者において、最も興味があった活動名はテレビであった。60%以上の活動は 8 つあり、テレビの他に、旅行、集い、歌、宗教、服装・ヘア・化粧、散歩、登山であった。男女間で 35%以上の距離があった活動は、3 つの活動で、女性の方が高いのが、ショッピング・買い物(女性 76.1%対男性 38.2%)であり、逆に男性の方が高いのが、野球(女性 18.5%対男性 61.8%)と囲碁・将棋(女性 4.4%対 54.6%)であった。Kruskal-Wallis 検定の結果、興味の合計得点と年齢、家族構成、階層、学歴、主観的幸福度間との有意差はなかった。

【考察】

韓国高齢者が興味を持つ特徴的だと考えられる活動は、集い、宗教、登山、グルメ、コンピュータ、思索・瞑想、民謡、花札、ジム、ヨガ、占いなどであった。これらの活動は、健康重視、社交関連、地域、伝統、流行、家族関係、信仰などが影響していた。対象者の特性と興味の関係において有意差はなかったが、女性、前期高齢者、二世世代の家族構成、中上流の階層、大卒の学歴、幸福であるとした高齢者の合計得点が高い傾向があった。本研究では首都圏在住の高齢者を標本にしたので、韓国全体の高齢者に一般化するのは限界点である。今後は、韓国の他地域への適用可能性と作業療法の実践場面での研究が必要である。